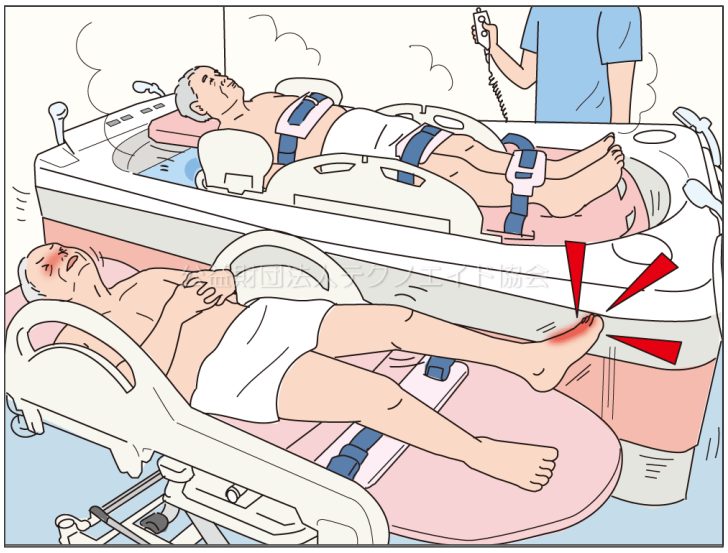
Case：416

機械式浴槽が上昇した際に、反対側で洗身していた利用者の脚を挟んでしまった

場面の説明

昇降式の機械浴槽で、両側にストレッチャーを接続して２名同時に介助を行っていたところ、片方の入浴で浴槽を上昇させた際、反対側の利用者の脚を挟み込んでしまった



利用シーン	入浴
主な利用場所	浴室・脱衣所
介護保険の種目	ー
分類コード (CCTA95)	093312 (入浴担架・おむつ交換台) 093321 (浴槽)
介護テクノロジー	入浴支援
二次元バーコード	

解説

機械浴槽の左右にストレッチャーを接続して２名の利用者を同時に入浴介助する場合、各々の介助者が反対側の利用者の姿勢などに注意を払う必要があることからより慎重な安全確認を求められます。浴槽から離れた箇所で洗身し、湯につかる時に浴槽に接続するなど手順を見直すことで安全性を高めることが出来ます。また、ストレッチャーから足が出ていたこと自体が安全ではないという認識も必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：機械浴槽の左右で同時に洗身介助を行うことで時間的な効率を高めようとしていた
環境：浴槽から離れた場所で洗身するスペースが無かった
管理：現場でどのような入浴手順を行っているか管理者が把握していなかった
管理：２名同時の入浴手順に対しての危険予測が出来ていなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.